

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100658		
法人名	社会福祉法人 自立共生会		
事業所名	社会福祉法人自立共生会 ひかりの里 3階		
所在地	三重県桑名市新西方3丁目187番地		
自己評価作成日	平成24年10月6日	評価結果市町提出日	平成 24 年 12 月 25 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 24 年 11 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共用型デイサービスで日中一時支援事業、放課後児童健全育成事業を併設しており、幼児と学童に職員も含めた三世代・四世代の交流を日常的に、又継続的に行っています。法人理念である「お年寄りの底力を活かす」を実践するため、お年寄りの知恵や昔取った杵柄を子どもたちや職員に教えて頂いています。障がいに関わらずさまざまな子ども達とも交流もしており、日々の生活の中で役割をもち感謝される存在となっただけのよう支援しています。定期的に外出や外食、買い物に出掛け、天気の良い日には託児所の子ども達と一緒に散歩兼ねた防犯パトロールにも出ています。自治会活動(地域清掃や地域の祭りなど)にも可能な限り参加することで、地域の中の一住民としてその人らしい生活を少しでも維持して行けるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大団地の一角にあって、事業所の周辺には同系列法人の医療機関、託児所、高齢者施設等がありこれらの施設とは交流がある。現在当事業所の一部の1階、3階が改修工事のために、2階の利用者が、仮の住居に移っているが毎日1回は事業所に通っている。まもなく改修工事は終了する予定である。毎日午後になると託児所の幼児や学童保育の子ども達が来て利用者となごやかな時間を過ごす様子は、子ども達の親達からも良い評価を得ている。職員は月1回のミーティングには全員出席し、また、毎月月間報告書に意見・提案を記入し提出している。これに対して施設長がコメントをする等、職員の励みになっている。日々こやかに生き生きとした介護をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「お年寄りの底力を活かす」を職員が共有し、幼老統合の取り組みを実践しているとともに利用者の自信回復と生きがいづくりに取り組んでいる。	「お年寄りの底力を活かす」を理念として、利用者が今までに培った知恵と技を生かす支援を、施設長はじめ職員は日々の介護で実践し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入し、毎年地域清掃や親睦会に参加したり、近所のクリーニングやさんに衣類をお願いに行ったりと、交流できるよう働きかけている。また、学童保育の子ども達が通う小学校のまつりにも出店したり、運動会にも参加している。また、防犯パトロールへも出かけている。	事業所主催の夏祭り・餅つき等の行事には、地域の住民やボランティア協会から派遣された人達も参加している。利用者は地域の一員として散歩・買物も兼ね、防犯パトロールに出かけている。また、事業所内保育、学童保育の子どもたちとも毎日接している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭り・お餅つきなどの行事にご近所の方を招待したり、地域の方々に事業所内を見て頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には桑名市介護高齢福祉、北部地域包括支援センター、第三者委員、自治会長、ご家族にも参加して頂いている。又、防災訓練にも見学・参加して頂き、意見を頂き、サービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催しており、市へ年間会議計画書を提出し参加を得ている。参加者から事業に(防災訓練等)参加されての貴重な意見・提案もあり、サービスの向上になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地区防災訓練への参加や桑名市介護支援ボランティア受け入れ、桑名市徘徊SOS緊急ネットワーク事業協力機関、桑名市地域包括支援センター、認知症見守り安心ボランティア教室の実習受け入れ時に、ケアサービスの取り組みを伝えられている。	市との連携は良く、施設長が認知症サポーター養成講座の講師をしたり、ボランティアの臨床研修も受け入れている。また、成年後見人制度の利用者の対応で市との連携がとられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止に向け、職員皆が日頃から取り組んでいる。止むを得ず、身体拘束を行わなければならない状況が生じた場合は、ご家族にも十分に説明し、承諾を得て記録にも残すようにしており、身体拘束ゼロへの取り組みをしている。	事業所の(1階、3階)の改修工事中で利用者は、別の所に転居したり、部屋の変更等もあり、現在玄関は施錠しているが、家族代表者には了解を得ている。職員は身体拘束のない介護の研修を重ね研鑽している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年研修会を行い、職員の意識の向上し、虐待防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修会を開き、参加できなかった職員には関係資料を配布したり、研修会のDVDを見せたり、レポートの提出により、周知・活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約日時を予め決め、十分な時間を取って説明し、御理解頂けるよう努めている。利用者、ご家族が不安や疑問点を聞きやすいように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階の玄関に「ご意見箱」を設置している。また、家族会総会やカンファレンス参加時、など意見を頂ける機会を設けている。出された意見や要望などには管理者・職員で共有し改善していけるように取組んでいる。	家族には来訪時に利用者の様子を話しており、また、月1回及び3ヶ月に1回のカンファレンスに参加された時に意見等を伺っている。以前家族から「自分で歩かせて欲しい」との要望に、職員が段階的に取り組み、買物に出かけられるようになった事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月「月間報告書」に宝探しや明るい雰囲気作り、改善案などを職員は書き、毎月提出している。また、月1回行われるカンファレンスにて意見や提案を聞き、情報共有し、運営に反映している。	主任者会議が週1回あり、情報交換をしている。また、職員個別に月間報告書を提出し、意見・提案等は実践に生かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「月間報告書」に日々の活動を記入し、毎月提出してもらい、努力手当や賞与に反映している。又、職員の意見を取り入れたキャリアパスの充実にも取組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回1時間程度、同グループ全体で研修を行い、職員のスキルアップに力を入れている。又、働きながら資格が取れるよう、勤務など配慮をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との情報交換やネットワークづくりのほかに、職員を積極的に外部研修に参加させ、他事業所から学ぶ機会を多く持っている。又、見学の受け入れ時に意見を頂いてサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴などをご家族やご本人から伺ったり、踏み込みすぎないように配慮しつつ、本人の要望や不安に対処出来るよう努めている。本人の思いをゆっくり聞く機会を持ち、安心できる人間関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時の管理者による説明だけでなく、本人とかかわることの多い職員も家族とゆっくり話しをする機会を持ち、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、職員だけでなく、必要に応じ医師や看護師とも連携を取り、必要とされている支援を見極め、ミーティングで話し合い、安心して過ごして頂けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人に出来ない部分を見極め、出来る事は最大限発揮していただけるよう努め、共に支えあえる関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスにも参加していただき意見や要望をケアプランに盛り込んで、共に本人を支えていけるよう取組んでいる。また家族会や行事など、ご家族も参加して頂けるよう働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	寺町や神社など地元を感じられる場所への外出を企画し、馴染みの人と交流が持てるようにしている。面会なども本人の意思も尊重しながら受け入れている。ご家族にも働きかけている。	家族の支援で冠婚葬祭には帰宅している。また、日本舞踊発表会、小学校の運動会に参加し、楽しんでいる。年2回のホテルなどでの家族会の食事会は馴染みの機会になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握し、生活を共にしている利用者同士が穏やかに過ごして頂けるよう席を配置したり、職員が橋渡し役となってひとりひとりが欠かせない存在と感じて頂けるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などにより退居された後も、必要に応じて本人や家族と、今後のサービス利用における相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用しつつ、普段の何気ない会話の中で希望などを受け止めたり、入浴時や夜間なかなか寝付かれない時などに個々の思いを少しずつでも聞き出せるように努めている。ご家族からの情報からも把握できるようにしている。	センター方式の思いの把握は年1回、確認している。利用者と日常の1対1の対応時に思いを話されることを大切にしており、たずねる時は二者択一の方法をとっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族やケアマネージャー、本人にお聞きしたり普段の会話の中でも把握できるよう必要に応じセンター方式活用し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のシートを用いて、思いや状態を把握できるよう努めている。又、往診時には療養シートを用いて伝達漏れや指示漏れが無いようにし、職員全員が把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回開催のカンファレンスで、ご家族には3ヶ月に1度介護計画見直しの際に参加していただき、家族の要望を取り入れている。職員・家族・本人・主治医・看護師などと意見を持ちより本人の現状に即した介護計画の作成に努めている。	月1回のカンファレンスで家族・介護支援専門員・職員で検討し、介護計画を作成している。また、家族の評価も書かれており、3か月に1回見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や業務日誌、療養シートに気付いたことや日々の様子を記入している。その中でケアの変更が必要となった場合は職員間で話し合い情報の共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望・要望に応じて買い物や外出を行っている。又、幼児や児童と触れ合う機会の多い事業所の特性を生かして、子ども達と作り上げる夏祭りやもちつき、食事会などを企画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校の運動会への参加、音楽療法や傾聴ボランティア、散髪ボランティア、学生ボランティアとの交流を行っている。又、日々のごみ出しや資源ごみ出し、地域清掃で地域との交流と地域事業への参加により地域貢献を行い、やりがいを感じながら、豊かな暮らしが送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は週1回、内科や脳外科は月に2回、神経内科は月に1回、医師の往診がある。又、歯科や眼科などは可能な限り本人のかかりつけ医を受診している。行くことが困難な方は、往診を依頼し支援している。	法人の医療機関の医師がかかりつけ医で往診もされ、看護師は週1回来訪しており、適切な医療が受けられている。眼科受診は家族の支援である。救急時の対応マニュアルは作成している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体であるウェルネス医療クリニックとは24時間医療連携を行っている。日常の利用者の状態を報告・相談することで適切な治療や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは看護サマリーや介護サマリーを用いて、情報交換や情報の共有を図り、適切な治療が受けられるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に向けたアンケートに記入してもらい、終末期にも話し合い、納得のいかれる最期を迎えられるようにしている。職員には法人の方針を説明し共有した上で、支援の在り方について勉強し取り組んでいる。	重度化や終末期の対応については年1回アンケートを実施し、家族の意向を把握している。利用者の重度化や終末期に直面した時は「看取り介護」についての同意書を得て、家族・職員等で支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同グループ内の研修で、看護師や消防署による心肺蘇生や緊急時の対応の研修を毎年行い、毎年消防署で行われる救命研修に参加している。利用者別にリスクマップを作成し、新人職員に周知させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立ち合いのもと、春と秋に日中だけでなく、夜間を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議の委員や地域包括センター、第三者委員にも見学に来てもらい意見を頂いている。又、三重県地域密着型サービス協議会の一斉防災訓練にも参加している。桑名市防災対策課職員による地震、風水害対策などの話をしている。	年2回消防署の指導で、防火・避難訓練等を実施している。3回目を来る11月21日に、近隣住民の協力を得て避難訓練を実施予定である。夜間想定訓練を実施したが、職員の通報訓練は再確認したい。	災害訓練は訓練回数を重ねるほど迅速に判断が出来る、行動がとれる。そのためにも機会ある毎に、通報・避難訓練を実施されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症があっても利用者ひとりひとりを尊重し、ご本人意思を確認し、支援している。プライバシーが保てるよう支援している。	利用者の人格を損ねるような言葉使い、行動はしない事等を研修委員が研修計画を立て研修を実施をしている。また、利用者の人格の尊重に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか思いを伝えられない方とは職員と1対1でゆっくり話せる機会を設けたり、利用者の普段の言動に留意し、常に察するようにし、何気ない日常会話から思いや希望を引き出せるように働きかけ、意思の確認をしている。利用者希望により外食の機会を設けたり、フラダンスのボランティアに来て頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体操時にその日の大まかなスケジュールを伝え、行事や催し物、外出などに本人が意思決定して参加出来るよう支援している。利用者一人ひとりの生活リズムを大切に、希望を聞いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時には、季節やその日の天候などを考え、また利用者の希望を取り入れ、一緒に選んでいる。2ヶ月に1度散髪ボランティアに来てもらい、本人の希望を聞きながら対応している。又、買物外出では本人の好みに合わせて品物を見て選んでもらえるよう支援している。夏祭りには浴衣を、ひな祭りには着物を着る機会を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、栄養士に伝え、献立に反映している。調理の準備(切る・ほぐす・擂るなど)から味付け、盛り付け、片付けに至るまで個々の能力に合わせて協力をして頂いている。又、幼児との食事会も定期的に行なっている。	嗜好調査をして栄養士に相談し、献立を作成している。食材は買物に出かけたり、商店へ注文したりしている。調理は各階でしており、利用者は調理の下ごしらえ、盛り付け等を手際よくしていた。週1回はかまどでご飯を炊いたり、行事の時は特別献立、外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導の下、バランスに注意し提供している。なかなか水分量を確保出来ない方には、個々に合わせて好むものを準備し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	比較的自立している方には声掛け見守り、介助の必要な方にはそれぞれに応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の尿量や排泄パターンを把握し適時のトイレ誘導し、リハビリパンツ、パッドの使用量を減らせるように努めている。また、自立に向けた支援としてオムツから布パンツへの移行していきけるよう、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を利用し、全利用者がトイレでの排泄である。夜間のみ1名リハビリパンツを利用している。1名バルンカテーテルを留置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量は、1.5～2.0ℓを目標として、こまめに提供したり、繊維を多く含む食材など献立も工夫しているまた、ご飯を炊く際に、寒天粉を混ぜている。極力自然排便が出来るよう、腹部マッサージ、適度な運動、日頃から朝の冷たい飲み物など個々の状態に合わせて取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調や意向を伺い、ゆっくり入浴出来るよう努めている。	週3回入浴できる。2階の浴槽は最近取り替えられた新式のポランテエコ式(浴槽)で操作により自動的に湯が入り、入浴後湯は機械の装置を循環し浄化されるもので、利用者は驚きつつも楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣に合わせて、光た室温など調節している。な、また、音楽を流してリラックス出来る時間を設けたり、日頃の会話の中で本人の思いに耳を傾けて不安を取り除くよう努め、出来るだけ自然な形で入眠して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示の元、服薬支援を行い嚥下が困難な場合や症状に変化がある場合などは医師に報告し速やかに対応出来るように努めている。また、薬の副作用、用法用量の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃のコミュニケーションやご家族から個々の生活歴や能力を把握し、能力を発揮できるよう役割を持って頂けるよう努めている。又、ベランダで食事やおやつを食べたり、外食に出かけたり、お弁当を持ってお花見に出かけたり、家族会との合同お食事をホテルなどで年2回している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出時には声掛けを行い、希望を伺っている。購入したいものがあれば極力ご本人と一緒に買物に出かけるようにしている。また、ご家族に相談し、外へお連れしていただけるよう支援している。	玄関先のベンチでの外気浴、一日1回は外気浴や畑仕事など楽しんでいる。利用者の希望等で、買物・防犯パトロール等、月1回の外出支援として季節毎の花見、外食を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の可能な方はご家族の了解を得て少額を管理して頂いている、買物の際は、出来る限り利用者自身で支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば家族や大切な人と電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。また、ご家族と連携し、携帯電話でいつでも連絡できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間でのテレビの音量や室温、明るさに気をつけ季節を感じていただけるような飾りを皆さんで制作し、居心地良く過ごせるよう工夫している。	玄関の壁に神棚が祀っており、居間兼食堂は一日の殆どの時間を過ごすところになっている。利用者同士、また職員との会話も弾んでいる。午後3時過ぎになると「パンの木」の学童が来て賑やかな時になる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い場所にはソファを、ベランダにはベンチを設置するなどして、のんびりと日光浴をしたりくつろいだり出来るように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた物や好みの物を持って来て頂き、居室内で居心地良く、安心して過ごして頂けるよう工夫している。	居室は居間兼食堂からは近く、各居室にはベット、物入れが設置されている。利用者一人ひとり使い慣れた物・好みの物が置かれ、居心地よく過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は段差の解消・手すりの設置・家具などの固定など安全面に配慮している。又、個々の身体状況に合わせ歩行器などを使用したり、出来る事を見極め、役割を持って頂き、安全かつ自立した生活が送って頂けるよう工夫している。		